

エッセイ教室 古典教室 受講生募集



かごしま年金協会では、「エッセイ教室」「古典教室」を企画いたしました。今春、高校の国語の教諭を退職された田ノ上淑子先生が優しく教えてくださいます。

ご興味のある方はぜひこの機会に学んでみませんか。場所や日時等、詳細につきましては人数が決まり次第お知らせいたします。

※申込締切日 令和6年5月31日(金)【6月開講予定】

(エッセイ教室 or 古典教室のいずれか希望される方をお知らせください)

《講師プロフィール》 田ノ上淑子

伊佐市出身。

同人誌「原色派」編集人。伊佐市エッセイ教室講師。海音寺潮五郎「偲ぶ会」代表。

文芸誌「とどろき」編集人。日本ペンクラブ会員。

南日本文学賞。九州芸術祭文学賞入賞。安川電機九州文学賞受賞、他。

南日本新聞エッセイ「介護の傍らで」連載。

著書：「そして潮騒を聞いた」「雨だれの音が聞こえる」他

会員の
みなさまへ

エッセイ教室へのお誘い

「れい子さんキネが見つからんとおー」

家族が寝静まった午前二時過ぎ、突然、せわぜわしい声が響いた。

義母が叫んでいる。三ヵ月前に胃の手術を受けた病み上がりの夫と一緒に寝ている孫が眼を覚まさないように、そっと起き上がり、義母の部屋の襖を開けた。義母はベッドから降りて、杖をついてうろうろしたり、畳に座り込んだりしている。

「キネを探しているのね」

「餅をつかんとんなあ、早うせんと、よか餅にならんとよ」

「どこに置いたのかな、一緒に探そうか」 —略—

『真夜中の餅つき』より

上の作品は、エッセイ教室に参加されている生徒さんの、認知症を患っている義母との日常を綴られた作品の一節です。日常生活の何気ない一コマ、遠い昔の思い出、体験、家族、風景、世の中にももの申すことなどを切り取って、文章にしてみませんか。「紙の碑」とは大仰ですが、子や孫、後世に書き残しておきたいことなど。自分を、周りを見つめるきっかけになるでしょう。

古典を読もう

「いづれの御時おほんときにか、女御にようご、更衣かういあまたさぶらひ給ひける中に、いとやんごとなき際きはにはあらぬが優れてときめき給ふありけり」
＝光源氏の母・桐壺の更衣のこと。

現代語訳

(どの天皇の時であったか、女御、更衣が大勢お仕えしておられる中に、それほど高貴な身分ではない方で、ひときわ帝の寵愛を受けていらっしゃる方がいた)

— 「源氏物語」の「桐壺」より —

NHK大河ドラマ「光る君へ」が放映中です。紫式部は宮中に仕えていた時、古典の物語の最高峰、『源氏物語』を著しました。どんな作品だろうと関心のある方、一緒に読んでみませんか。



また、古典の三大随筆、「枕草子」「方丈記」「徒然草」。学生時代に習ったなあと思われる作品など、今一度読み解き、忘れかけている日本の心に触れてみませんか。

紫の上の文を燃やす源氏(『源氏物語画帖』幻)